

1. 実施概要

- 条例の基本的な考え方や盛り込む内容を検討
- 夜間講座、夜間討論会参加の若手職員 8 名
- 全 6 回の会議を実施

2. 主な検討のポイント（検討中議論となった点）

- 誰を主語とした条例を作るのか
- 市と市民の関係をどう表現するか
- 新しい市民像とひとづくり
- 新しい協働のイメージ
- 評価についてどう盛り込むか

検討内容①

○誰を主語とした条例を作るのか

- ・これまでの「市は、市民は」ではない書き方としたい
- ・今回は市と市民がともに行動するというイメージのため、市と市民を含めた「私達は」といった表現をしたい
- ・市も市民ととらえ「私達市民は」という案も出た

○市と市民の関係をどう表現するか

- ・市も市民もそれぞれできることや役割の違う登場人物
- ・さまざまな登場人物がフラットな関係でつながっていく
- ・縦のつながりから横のつながりに変わっていくイメージ

検討内容②

○新しい市民像とひとづくり

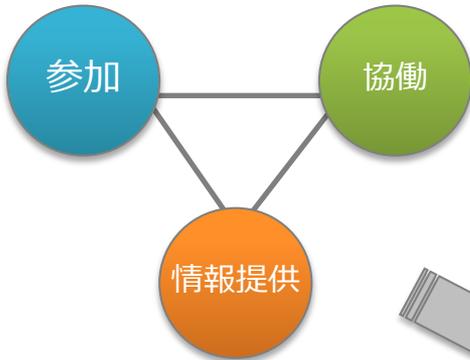
- ・市民は自ら情報にアクセスし、主体性を持って行動する
- ・まちづくりの前提としてひとづくりが大事
主体的、自律的に動く市民「主体的市民」を増やしていきたい
- ・市職員も一人の市民として、主体的に地域に関わっていく

○評価についてどう盛り込むか

- ・登場人物が市だけでないので、一律の評価は難しい
- ・事例発表や表彰をすると良いのではないか
- ・理念条例の下に行動指針やアクションプランが必要ではないか

○新しい「協働」のイメージ

これまで



参加・協働・情報提供はそれぞれ個別の定義？

これから

参加も「協働」の一つの類型なのでは？

情報共有の層の上に、さまざまなかたちの新しい「協働」が乗ってくる

協働

(従来の)
参加

(従来の)
協働

共助

近助

互助

情報共有

情報提供

市民からの
声

市民が
できること
の情報

「協働」に代わる新しい言葉はないだろうか・・・